

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4072600713		
法人名	有限会社 ラビット		
事業所名	グループホーム つるとかめ		
所在地 (電話番号)	福岡県行橋市東大橋1丁目3-10 (電話) 0930-24-3649		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年11月18日	評価確定日	平成21年12月21日

【情報提供票より】(平成21年10月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 10 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 5 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての 1階 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3.3~3.9万円	その他の経費(月額)	水・光熱費 5,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1月当たり		30,000 円		

(4) 利用者の概要 (10月23日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	67 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	きむらクリニック・直方在宅診療所・井手口歯科医院・新行橋病院・小波瀬病院
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

行橋市の中心市街地から少し離れた東大橋地区に、グループホーム「つるとかめ」は位置している。広い敷地内には、同法人の有料老人ホームが隣接しており、入居者の方々も一緒に作業する畑や花壇が設けられている。2ユニットのホームは2階建てで、ゆったりとした余裕ある空間づくりがなされており、職員は、一人ひとりの入居者の方々が、自分のリズムで生き生きと過ごせるよう、生活リハビリを取り入れた支援で、心身の健康維持を図っている。周辺は若い世代が多い新興住宅地であり、地域との交流についても課題はあるが、区長を始めとする地域の方々より野菜の差し入れをいただくこともあり、少しずつ交流を育んでいる。行政や「在宅介護を支えあう会」、「高齢者も元気に暮らすまちを考える会」との協働や連携により、地域の高齢者支援にも取り組んでおり、今後の更なる充実が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での改善課題として、運営推進会議の定期開催への取り組み 職員育成 災害対策等が課題として挙げられている。改善に向けての取り組み姿勢はあるが、課題も残しており、継続しての取り組みが求められる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価作成を日々のケアを振り返る機会として活用し、見直しや改善について、管理者・職員が話し合いながら取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議には、入居者・家族・区長・市担当職員等の出席により、要望や助言を運営に活かしている。特に本人・家族の参加は、要望や苦情を聴くことができる機会として、大切にしている。昨年までは3ヶ月毎の開催となっていたが、委員の協力も得られ、2ヶ月毎の開催となっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>入居時に、苦情相談窓口についての説明を行い、同意を得ている。玄関に苦情や要望を伺う用紙を準備したり、何でも言ってもらえるよう家族との関係づくりに努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会活動に参加し、地域の祭りや行事に参加している。運営推進会議には区長の出席があり、地域行事の情報の提供を受けている。地元の方々からは、野菜や不要となった家具など頂いているが、近年、周囲の新興住宅地の開発も進み、新しいふれあいや交流について考える時期と考えている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域密着型サービスとしての意義をふまえ、「住みなれた地域でいつまでもいきいきと暮らし自分のリズムに合わせたその人らしい普通の暮らし」と理念を掲げており、地域とのつながりを重視した内容となっている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念は、家族や来訪者にも目にふれるよう、廊下の壁に掲示しており、管理者や職員は理念に基づき、入居者の方々が、安らぎと喜びのある生活が送れるように、日々実践に取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	自治会活動に参加し、地域の祭りや行事に参加している。運営推進会議には区長の出席があり、地域行事の情報の提供を受けている。地元の方々からは、野菜や不要となった家具など頂いているが、近年、周囲の新興住宅地の開発も進み、新しいふれあいや交流について考える時期と考えている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価や外部評価が、日頃のケアの振り返りとなっており、見直しや改善については職員や管理者が話し合いの中で検討し、前向きに取り組んで行こうと考えている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は、入居者・家族・地域区長・市担当職員などの出席があり、要望や助言を伺う事でサービス向上に活かしている。特に本人・家族の参加は、日頃の要望や不満を伺う機会となっているので大切にしたい。昨年迄は3ヶ月毎に開催していたが会議の必要性を認識し委員の協力も得られ、2ヶ月毎の実施となっている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム つるとかめ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	市担当職員とは常に連携を取りながら、施設運営やサービスについての指導・助言を得ている。また行橋市が企画する、介護保険事業の行事や研修には参加し、サービス向上につなげている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	権利擁護に関連するマニュアルを配布し、職員の理解を促しているが、研修は特に行っていない。成年後見制度を活用している方もおり、必要時には公的機関との連携で施設として出来る範囲の支援は行っている。		現在、制度を活用している方もおり、その過程において学ぶ事も多いと思えるが、職員全員の理解を更に深めるためにも、内外の研修に参加する機会の確保が望まれる。
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月請求書発送時に、手紙や写真を同封してホームでの状況を知らせている。また家族来訪時には、受診状況についての記録を参考に、具体的に報告をしている。個人の買い物については、ホームとして立て替え、後日家族へ請求している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	入居時に、苦情相談窓口についての説明を行い、同意を得ている。玄関に苦情や要望を伺う用紙を準備したり、何でも言ってもらえるよう家族との関係づくりに努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	運営者や管理者の交代があったが、これまでの理念を大切にしながら運営を行い、職員が少しでも長く勤められるよう職場環境の改善にも取り組んでいる。入居者の方々への配慮としては、ベテラン職員が新任職員と共にケアしながらポイントを指導し、ダメージが最小限になるよう支援している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員採用については特に制限はしていないが、介護についての思いを持っている人が望ましいと考えている。職員へは働きやすい人間関係が築けるようコミュニケーションを大切にし、要望を可能な限り取り入れるなど、開かれた関係作りを目指している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム つるとかめ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	人権教育については職員へマニュアルを配布し、ミーティング時に、日頃のケアが人権を尊重した対応であるか、話し合いや意見交換を行い、意識付けを行なっている。市や社会福祉協議会等の研修にも参加して行きたいとの意向があり、積極的な取り組みに期待したい。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	できる限り研修等には参加していきたいとの意向があるが、人員配置等の事情により、充実にはいたっていない。研修計画への取り組みについても課題として残っている。		職員も研修の必要性を認識しており、積極的な姿勢も確認できる。限られた人員体制の中ではあるが、内外の研修参加の機会を確保し、また内容を共有できるよう体制の整備が求められる。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	京築グループホーム連絡協議会に参加し、合同でのイベントの開催・介護保険関係の伝達・困難事例の検討など、幅広く行っている。同業者同志の会合は、共通の議題での意見交換の機会となり、運営や職員の育成に役立っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居相談時に、本人・家族・その他の関係者と話し合いを行い、要望や疑問などゆっくりと傾聴している。その後ホームの見学や体験入所などを行い、徐々に関係づくりを行ないながら、本人・家族が安心して入居出来るように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	年長者である入居者の方々の、これまでの経験を尊重し、調理法を尋ねたり、地域の季節の行事やテレビの話題など、一人ひとりへの声かけを大切にしており、その中でお互いの思いを共感するなど、さりげない関わりを大切にしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム つるとかめ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	何気ない話や行動、家族との対話等から、入居者の希望や意向を理解するように努めている。その事を職員が共有すると共に、日々の生活に活かされるよう支援している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族・医療関係者などとの話し合いを参考に、職員とも話し合いながら、これまでの暮らしが少しでもホームで継続出来る計画を基本としている。本人家族にも説明し同意を得ている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	状況の変化や要望があれば、その都度計画の見直しを行っている。		モニタリング・評価を実施し、記録に残していく事が求められる。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	健康管理は、医療連携による医師・看護師・職員間での連携により適確に行っている。入院や退院時などは関係機関と話し合い、本人や家族が望む支援を行っている。ホームとしては学生の介護実習や小学生の施設見学を受け入れたり、「在宅介護を考える会」の見学や相談にも対応している。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	かかりつけ医への受診については、本人・家族の要望を優先している。通院については職員が同行しており、看護職員による適切な情報提供を行い、健康管理や服薬指示などは介護職員との連携により、適確に行っている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム つるとかめ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期への対応については、本人・家族の意向に添うようにと考えており、事業所としてできる限りの支援を行っていきたいと考えている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居者の自尊心や尊厳を傷つけないよう、声かけや対応についてはいつも注意している。個人情報の取り扱いについては、法令遵守に努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	本人のリズムに合わせた生活支援を行っており、情緒面の安定につながるよう取り組んでいる。自室にこもったまま過ごす方や、疲れの見える方には、個々に安静や活動の声かけを行い心身の機能維持に努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事は入居者の方々にとって何よりの楽しみでもあり、職員も毎日の食事には特に力を入れている。一人ひとりの能力に合わせた協力をお願いし、職員と一緒に買い物や準備、後片付け等を行い、生活の活性化につなげている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴の予定表はあるが、個々の希望や状況により柔軟に対応しており、一人ひとりがゆっくりと入浴を楽しめるよう、支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム つるとかめ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	ホームの犬の世話をしたり、畑や花壇もあり、一緒に楽しめるようになっている。玄関前に椅子を設置し、散歩やくつろぎタイムでの利用が可能である。掃除や配膳・洗濯物の整理など、出来る範囲の役割があり、日中はリビングで雑談したり体操したり、作品作りなどで一人ひとりが自分の生活リズムで過ごしている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日頃は施設周辺を散歩し、近所の方々と挨拶や声かけを行っている。庭での散歩も自由に出来、希望があれば馴染みの店や場所へ出かけている。月1回の外出レクリエーションは、昔馴染みの近隣の名所等に出掛けており、日時の都合がつけば家族にも同行をお願いしている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	通常は鍵をかけないケアを実践しているが、必要時には安全確保のため施錠することもある。裏庭への出口は開放しており、自由に行き来出来る。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署との連携により、年2回の避難訓練を行い災害に備えている。スプリンクラーの設置については、今年度内の設置が決定している。地域への協力依頼が充分でなく、今後の課題と考えている。		運営推進会議等を活用しながら、継続して地域の方々への協力を呼びかけていくことが求められる。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	献立表はバランスを考えながら、好みや季節の食材を取り入れている。個別的な支援については、摂取能力に応じた調理方法や材料などの選択を行っている。食事や水分摂取量は個別的に記入しており、常に体調管理に配慮している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム つるとかめ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	十分な広さを持つ共用空間には、ソファや畳スペースが設けられており、それぞれがくつろげる場所が確保されている。周囲は静かな住宅地であり、また日当たりもよくブラインドにて光量を調節している。キッチンから調理の音や匂いが伝わり、生活のリズムが自然に感じられる、家庭的な雰囲気となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	洗面台・クローゼット・エアコンが設置されており、自宅にあるベッドや布団等、馴染みの物を持参して貰い、これまでの生活の延長になるように支援している。掃除も入居者の出来る範囲で手伝って貰っており、居室入り口には暖簾や名札がかけられ、わかり易い工夫がある。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			